

# 日本簿記学会ニュース

No. 67:7 / 2019

## 《部会の経過報告》

第35回関西西部会は、令和元年5月25日(土)に兵庫県立大学(準備委員長:兵頭和花子氏)にて開催されました。また、第35回関東部会は、令和元年6月22日(土)に小樽商科大学(準備委員長:簗本智之氏)にて開催されました。関西西部会の詳しい内容は本誌部会記をご覧ください。

## 《全国大会のご案内》

第35回全国大会(準備委員長:上野清貴氏)を下記の予定で開催いたします。  
厳しい暑さが予想されますので、軽装にてご参加頂きますよう、お願い申し上げます。

開催日:令和元年8月23日(金)～25日(日)

会場:中央大学多摩キャンパス

統一論題:「簿記教育の現代的課題」

23日:学会賞審査委員会・理事会

24日:高校簿記教育懇談会・会員総会・学会賞受賞講演・統一論題報告・研究部会報告・懇親会

25日:自由論題報告・統一論題討論

## 《関西部会記》

### 日本簿記学会第35回関西西部会記

兵庫県立大学  
準備委員長 兵頭和花子

日本簿記学会第35回関西西部会は、2019年5月25日(土)に、兵庫県立大学にて開催された。今回の関西西部会では、統一論題報告と自由論題報告の2部構成であり、自由論題報告のあと、統一論題討論が行われた。統一論題のテーマは「近代化と西洋式簿記の伝播」であり、統一論題座長の工藤栄一郎氏(西南学院大学)の進行のもと、松田有加里氏(高松大学)、矢野沙織氏(西日本短期大学)、島本克彦氏(大和大学)による報告が行われた。

座長の工藤栄一郎氏から統一論題テーマの「近代化と西洋式簿記の伝播」の解題が次のように行われた。江戸期における簿記が明治期を経てどのように展開してきたのか、西洋式簿記の導入前後において、

日本の簿記にどのような影響を与えたのかをテーマとして報告が行われた。とくに、記録報告システムとしての近代化や西洋式簿記は(国家・社会の)近代化に貢献したのか、西洋式簿記の導入において認識された問題は何か、技術や知識といった技術や教育の側面からの伝播・普及・定着があったのか、またそれらはどのように伝播されたのか、在来簿記と西洋式簿記の伝播における相違などの点について解題が行われた。

第1報告は、松田有加里氏の「江戸時代後期の商家における帳合法に関する研究—近江商人中井家の「店卸目録」の分析から—」であった。本報告では、江戸時代の商家を取り上げられ、当時における会計の必要性の認識について説明された。当時は、各家固有の簿記法を実践していたが、遠隔地に支店を構える家においては支店管理・受託責任の解除のためであった。そして、このような認識の中、西洋式簿

記が導入された際、実際の帳簿記入および決算に関する知識・技術面での受け入れの土壌はどの程度整っていたのかについて、中井家の仙台店、石巻店、相馬店を検討対象として分析された。

第2報告は矢野沙織氏の「文部省刊行教科書による西洋簿記の導入と意義」であった。本報告では、日本の明治初期の教育制度について触れられた。明治初期までの大学を廃止し、我が国最初の教育基本法である「学制」が公布された際に、記簿法が初めて教科として採用されたこと、またその時の教科書についても説明された。そして当時の簿記教育の中、明治初期の社会システムにおける簿記の存在、公教育による簿記の伝播に着目しながら、明治初期における文部省が簿記教科書を刊行する必要性について検討された。

第3報告は島本克彦氏の「日本式収支簿記について」であった。本報告では大原の収支簿記の特徴と内容を説明され、それが産業組合に導入されたにもかかわらず、いわゆる貸借式の複式簿記に変更されるまでの状況について検討された。明治6（1873）年以降、複式簿記の導入は、学校での簿記教育が充実するまでは、一部の会社や銀行を除き浸透しなかったとして、大原信久によって考案され、下野直太郎によって日本式収支簿記法について取り上げられた。そして、収支簿記の採用および複式簿記の採用について比較された後に、簿記教育上の長所と短

所についても述べられた。

自由論題報告では、三光寺由実子氏（和歌山大学）の司会のもと、笹田博氏（佛教大学大学院）による「近松のなぞ一大石の「預置候金銀請拂帳」について」による第1報告が行われた。本報告では、忠臣蔵の大石内蔵助が討ち入りまでの収支金額を書き残した「預置候金銀請拂帳」が帳簿ではないことを、世界地図等によって論証することを試みられた。

次に、高須教夫氏（兵庫県立大学）の司会のもと、首藤洋志氏（名古屋大学大学院）による「資産負債観に基づく歴史的原価会計—収益認識会計基準を手がかりにして—」による第2報告が行われた。本報告では、アメリカの財務会計基準審議会（FASB）と国際会計基準審議会（IASB）が行った『収益認識プロジェクト』及び『概念FWプロジェクト』を経て、現代の収益認識モデルが会計利益観や会計の体系との関連性の中でどのような変容を遂げたのかについて明らかにし、そのうえで『IFRS第15号』が日本の『新収益認識基準』に与えた影響について整理された。

その後の統一論題討論では、座長の工藤先生のもと、活発な議論がなされた。引き続き懇親会が開催され、多くの会員にご参加いただき、会長の佐藤信彦氏（熊本学園大学）のご挨拶、中野常男氏（国士舘大学）の乾杯のご発声の後、会員間の懇親を深め、盛会のうちに終了した。



## 人類の経済発展と簿記・会計

筑波大学 岡田幸彦

簿記・会計は、人類の経済発展に寄与してきた。この命題を、会計学者は信じている。それでは科学全般として、この命題はどのように考えられているのだろうか。米国科学アカデミーが発行する、世界で6番目にH-Index（k回引用された論文をk本公刊した、という指標）が高い総合科学雑誌PNAS（*Proceedings of the National Academy of Sciences*）をご存じだろうか。このPNASに掲載されたBasu et al. (2009)が、冒頭の命題に対する会計学者以外の科学者たちの認識を知る一助となろう。

Basu et al. (2009)は、人の脳の記憶限界を補完するために、人間の記録を残す行為（recordkeeping）が社会経済的に重要であるという諸科学での知見に注目する。そして、現代会計の記録保持はまさにそのような記憶補助の役割を果たすとする会計学者たちの主張をふまえ、記録を残す行為の経済的な役割に関する被験者実験を行っている。この実験では、被験者は「記録を残してもよい群」と「記録を残してはならない群」の2群に分けられる。そして、一対一の単純な経済取引と、多対多の複雑な経済取引の2つの状況設定において、「記録を残してもよい群」が「記録を残してはならない群」に対してどのような行動の違いと経済的優位性を示すかを検証している。その結果、複雑な取引の方が記録を残す誘因が高まり、「記録を残してもよい群」の方がより大きな経済的利得を手に入れることがわかった。この実験結果からBasu et al. (2009)は、記録を残す行為が過去の経済的成果を思い出すことを助け、取引相手の信頼や評判の形成を促進し、自身の経済的な意思決定を自発的に調整させる役割を果たすとす

る。そして何より、人間の記録を残す行為が経済の歴史を変え、知らない人と取引をすることによって損をするリスクを回避できることで経済取引をより活発にすることを主張している。

さて、このBasu et al. (2009)が掲載された科学者たちの憧れの雑誌PNASは、論文の掲載可否を決める権限を持つエディターとして世界トップの科学者を据えることでも有名である。Basu et al. (2009)の場合、エディターは実験経済学の方法論を確立した功績によりノーベル経済学賞を受賞したバーノン・スミス教授であった。そして、バーノン・スミス教授による高評価の後押しを受けた communicated submissionとして、PNASの査読プロセスを勝ち抜いたのがBasu et al. (2009)である。つまり、バーノン・スミス教授を筆頭とする会計学者以外の科学者たちの認識として、簿記・会計を含む人間の記録を残す行為が人類の経済発展に寄与してきたと考えられていることは、おおよそ間違いない。

ただし、同志社大学の田口聡志博士や大阪大学の三輪一統博士が指摘するように、Basu et al. (2009)はその実験において、簿記・会計ならではの定型的な記帳方法を用いたわけではない。経済取引に係る記録方法は、被験者の任意であった。人類の経済発展に寄与してきた人間の記録を残す行為の中で、簿記・会計ならではの貢献はどこにあったのか。我々会計学者が今後解明すべき、科学の重要な命題である。

### 参考文献

Basu, S., J. Dickhaut, G. Hecht, K. Towry and G. Waymire (2009) "Recordkeeping Alters Economic History by Promoting Reciprocity," *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, 106 (4), 1009-1014.

### 編集後記

今回は岡田幸彦先生（筑波大学）に《ずいひつ》をご執筆いただきました。3月に日本大学で開催された第3回「簿記研究コンファレンス」の際、佐藤会長からのご執筆依頼を快くお引き受けいただきました。感謝申し上げます。

（石光・小澤・小阪・中村・兵頭）

発行所  
編集兼  
発行人

日本簿記学会事務局

事務連絡所

〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-1-15

株式会社白桃書房

e-mail boki@hakutou.co.jp

URL <http://www.hakutou.co.jp/boki/>